



務津能波那
丹以之編

中村俊定文庫
文庫 18
191



六の花



月はゆふたのあつれよおの曉と
朽ちるるいと昔のあつれよ
きんせらるる人よこふあつれと
袋土もあつれ人よあつれ
志は兼登つてあつれよとあつれ
や去るる事だやうくあつれ

六花

幸一生をいりれとぬよい南を
 ひとと幸又は道類あるとい日一
 等に遇ふれは心所へあゝと一兩
 午れ冬一とこゝも遠は心志あ
 了々古きある又ちよの夕はあは
 りるよらと類号とい所傳るぬ

尾陽

丹波序



其二 百類一折

以てらや言ん又こらふたさく

故人やうれ冬れ明母の 以之

面白や錢守録もいひて 勢州 麦林

馬よる知なれは 拍心 普古

止水も濁つて落る早苗時 租符

杜律もれと鉄炮北音 春波



善

其二 百款其尾

三

初七や水仙此葉のたむほせ

極又うさぎ越振ふは葉矣 馬場 素水

世中又とらぬ耳を持ておて 以之

は十獻立此以また七中す 丁牧

名月越山と舟との伴南破 琴市

有物とりにはける枯風 巴靜

吾吸る雪と町此大此次一矣 呂香

四五牧本此讀うけある 梅笠

少ころに娘入此海法を四小款 戎井

母り隠りく帷子の風流 万花

おも言ふ京も難波も又る山 水

破くく返す神此節り 之

る此りよ木履しをう守年季志 牧

物此節市井寺此節都 市

幕打くちり寸ハあさる世此科
此龍此摘甘菜の身を貴殿
貴

其三 款他一折

三

海此此の山に暮る水に相此也
年七石此此探此此也
噴花

馬二正並ハ此及此ふさうさく
帽子又あれる風をさうさく
ひんと思ふ今相此此ハ何此月
水此此此此此遠哉演此
早此此此此又此此此此此此此
高今今此此此此此此此此此
而此日ハ食ハ此此此此此此此
寝も枕を知り此此此此此

横氏

氣のあまぬさよ、つをばい

くふるちんこの吉原

月もまよひ日こまぬ世分別

静加七相撲いそれれ

三河のまよひに北船もゆる

心のまよひ短冊のゆ

若ぬよお根北生く。長生也

や、雀北葉よまよひ時り

之

静

布

毛

台

之

石

布

其四 秋仙首尾

鳥

一をまよひゆる若れあしこ哉

所、なると北船もゆる日 コロモ 雁年

せしちや北音に為人の自是らみ カカサキ 胡吹

忘れぬ思ひや 日 蟻巷

陸北鳴空く月北音るを カカサキ 吟

下も北指又ハ西条 カカサキ 夫一

ウ

一之を百くさる枯れ風 日 枯冬

窓より年もあはぬ女房 中カイト 夢や

たもこや北地水又ひらく杜若 カリヤ 吐虹

五林雨ハ大れく幕中 東ウラ 之峰

花心尺毛に長老北通りけ 西カ 柳若

正月さくく二月朔日 巴靜

其五 短歌り

三

初雪や掛くさき厚持北上

日影も思ふれさる女 山 朴

高又やす知ハ海又雁さく 葎 中

あれハ若みう親此あひ口 唯 人

昔此葉の伏見又若ある 魚 来

物あなもちく一板 以 行

雀啼 借此氣おし氣此 葉 東家

思つ降つ の山を尺くわる 万蘭

深淵を志しく 羅此讀習ひ 巴靜

宇治此茶葉も世人の内 和木

仲引借し 傘又花日暮り 朴

二 葉末南あし子 猫子投打 中人

晝久入又空際 踏皮此ぬありと 來人

神子を尺とさるるとんち此 摩子

床さや眠るよるも夕暮る 之

机北上又南あし子 家

神鳴りねとさ水くわねやのり 蘭

流石氣精な香やたり 靜

物轉月照るすいゆも啼 木

礎上戸此こゆる 松坂 朴

ウ 鞋ゆもゆる 新サるま此あをれ 中

白ひてある かる籠のちん 人

け種をて風敷を北浪 来
松北みもるも子本は津 木

其六 哥仙

よ

市人又以く是幸ん笠北者
都北所を砥衣大者 已鞞
珠く雪之衣それハ珠子く 左把
袴も袴とさす相北深水 素塚

名雨七月北う降く北毛又啼 比誰
水ひやく中井戸又くあり 井取
尺おれもとるハ西風ぬあや 以て
ちあれハちあつと返す女子衣 流枕
御屋敷又わく香具やハ焼たり 庭架
梅も以る降くる北夕それ 百陀
白鹿吹くあまひありくよ習子 春士
汗流すも尚もさなる 東飯 杞

六之松
杖木此あまのこを新又移す

乃所一より姑此押柄

湯此心と相与つ此さる冬此

柄よ其のまことなる一木

之節小神移んて見すも此心

二
袴く来るとる 昔昔昔昔昔

心休もちうと調市あつてこ

内いひて此奇素好也

士枕架陀之隊難靜

楊弓此あまのこはあまのこ

まふくあまのこやあまのこ

即起此はまのこはあまのこ

即起此はまのこはあまのこ

相候一人ぬけは降也

尺官此魁もあまのこ房は

局候此月此まのこ十五日

中綿や綿の毛はぬれ

根之根根隊把靜根

六花
漢之於の作坊此有物だかや

王羽二をむる御平

夜成又矢掬をぬる

嵐飛と心をふしれぬり

長持此肩うちあかりなる

若菜云ち川うたにぬれり

花れやいまもそぬ此は乃思

何やうゆす糸料

之 静 誰 豚 把 士 陀 架

爰の春夏秋

是れゆくやばるる花の吉野山

此一章は海の家老人のて下れ

耳目越ゆるるや故郷の

紀りにも延すく感させたまひ

昔方學たむの白をねそれ終あや

世くの撰集よあたるも其日

了れ可又あつてぬるを

歌よるも軍よかまう一吉野山
 は一章ハ東華先師の紀りよ
 其行の難陳又放翁且く吉野
 又對一く昔又一字の他所
 也ハ彼ら老成人此花のりを
 そふハヤそはく我もはふは
 しく其跡を師とすなまは

心ハいゆる石下ハ繁のり
 もくは来の難をたぐるを
 誦又昔の風流を称せば月
 又花ハはひるは物
 雪白の哀示をなす人
 此觀相をこくにばく
 其そのそのもハ志くす
 此實を強くこす

七草のやまらばとあのみを一畑アツタ加氏 化光

詠む此おのよきゆくしとる湯子日 古田

葎論小歌や継春播日 李高

芸起すもや湯子北田寺日 懈 仙木

興り異るう並多く刃さる梅柳日 楚由

古月まとい初る月北総日 那 望仙

一巻の初空にあらそふや海中古伝 三口

居眠り此一日志と色柳大山 花師

初年や日初明也寸角北日 花半

也竹茶又喜る此日我待れ日 花頂

妻夫な又風此はけしや日 雉子 亀兄

木枕此のよみもとれく日 花乃哉 吟節

ゆきう咲一歌く此月中津川 一水

一日を十日此夜也信州井ノ口 合之

菜畑や花よ色明く啼日 鴉 菟學

空又やこるや掛りく日 縁の志 紀定

詩水くさるる降れまはる 暁半
 其の北葉集のこころ 梅の花 ミナトヤシ 松花
 梅の花北葉集のこころ 也寺若流 日 二毛
 梅の花北葉集のこころ 能高 今乃 風春
 梅の花北葉集のこころ 好子哉 日 陸舟
 梅の花北葉集のこころ 也哉北花 日 好文
 梅の花北葉集のこころ 水神 日 流水
 梅の花北葉集のこころ 啼 日 桃花
 梅の花北葉集のこころ 啼 日 風和

梅の花北葉集のこころ 柳 日 随松
 梅の花北葉集のこころ 日 日 赤吹
 梅の花北葉集のこころ 梅の花 日 李林
 梅の花北葉集のこころ 如亮 日 如亮
 梅の花北葉集のこころ 柳 日 柳花
 梅の花北葉集のこころ 九南 日 九南
 梅の花北葉集のこころ 松花 日 松花
 梅の花北葉集のこころ 松花 日 松花
 梅の花北葉集のこころ 松花 日 松花

松風北きるハ屋中御月十月比皆

百人首越知コ彭ヤ若サ茶葉 浪枕

雲ハ白北とけくハ柳ウ風 曉昔

二首や野山ハ所コふ多北き 陣前

草餅や田舎又伝コ京北喬 山中

あ北年コ風中揚る氣ハ涼 藤了

うと玉北初リ為一懸月 三洞

川水北定ハ流コ柳ウ多 其流

垣結如コ四日五日よ桃北花 暎志

白鳥や柳北風に吹ル来る 巴席

存コ北羽子コ垂コヤお水景 桃角

水風呂北息コ何コけく柳ハ 控五

相ありハ北碎北碑コる柳ハ 和木

そコヤ人およこぬコ左年北 象来

扱本を若コこ子や雉子の夢 以之

時コ終来コ歌コ接木哉 百陀

梯園橋北すゝも破れり
 唯人
 夕影や日五所出く人北垣
 以そ
 蒲園志く蝶北眠り牡丹畑
 毒士
 灌佛や牡丹又存ふ人ころ
 已持
 紅イ又水もくゆるや蓮北花
 素水
 尺る人北飛もある手移り哉
 喃花
 柴刈北あそ哉垣やそ北峰京
 吾池
 山も藍もおほろや脱て更衣
 山只

風鈴やきし北ちる日北垣隣
 大正寺
 扇角
 為帽子さるぬ若心と伊く杜若
 日
 蝶北羽の古ひく程あ若茶心
 日
 波缸
 一きほききしにを海へ更存
 日
 鉢山
 勤子に片くも風あると竹
 日
 泊水
 あ北葉も係よこの首三浦り
 日
 光葉
 及く又葉やころす根北吾
 日
 砚水
 まことえぬ目又物又せん持幅
 日
 小竹

幻水此縁と吾戸此春の田日 流化
 竹此子此一境中や一快儀 文海
 卯此也又鶴とく鶴此布子日 不尺
 藤皇執裁也る誌もあは 箱幟一海
 林所々如所そや吉紫と拈筆 右龍
 草刈此は田よりや百合の地 栗ル
 朽竹此門やうけくあやゆふ 有琴
 弦ひはせく母親とく 粽う風 素気

糸を編く花や紫此階子 吟 泊帆
 弓張や川越うらに夕すみ 笠松 箕由
 花娘此もやとつとちま記裁 日 海童
 石向も大骨折るや一相筋 揚波
 織うう海苔うあうと更衣 宿仙
 竹此子や拈ふ髪此水うみ 日 比柳
 着竹此不帯拈うる 琴尾
 るを袂に里ゆき母田此帯の 日 風荷

牧をよみけに 日 草をよみ 日 木云

錦 日 紫 日 紫 日 紫 日 紫

咲 日 咲 日 咲 日 咲 日 咲

深 日 深 日 深 日 深 日 深

竹 日 竹 日 竹 日 竹 日 竹

的 日 的 日 的 日 的 日 的

寒 日 寒 日 寒 日 寒 日 寒

青 日 青 日 青 日 青 日 青

葛 日 葛 日 葛 日 葛 日 葛
孫 日 孫 日 孫 日 孫 日 孫
更 日 更 日 更 日 更 日 更
人 日 人 日 人 日 人 日 人
竹 日 竹 日 竹 日 竹 日 竹
水 日 水 日 水 日 水 日 水
柿 日 柿 日 柿 日 柿 日 柿
卯 日 卯 日 卯 日 卯 日 卯

花北のき北の遠一更衣 日 角子
吳服や北着うら一更衣 中津川 七加通
人教又着を配るや夕涼 日 桃石
鶯を北北打おまのをす 多角 芦角
白雨北おたか イノ山 磯口
雨乞やと深の巻とけの池北 日 九世
雪北中存 日 涼一 伴以心 日 露討
鶯を北北息子を 三州 石川 日 衣也 日 林冬

月ゆくぬき 左折カ 満すや 日 北 日 反梅
渡河幾 日 京へ 日 上るや 日 初サ 日 芭り
津川 日 又小鏡 日 北 日 我 日 や夕 日 す 日 み 日 州 日 蒸
簾捲く 日 日 日 や 日 山 日 く 日 北 日 一 日 つ 日 も 日 更 日 左 日 年
着竹 日 北 日 た 日 く 日 日 日 の 日 目 日 や 日 鶴 日 舞 日 の 日 戸 日 素 日 琴
あ 日 本 日 に 日 清 日 く 日 隣 日 北 日 ち 日 づ 日 心 日 信 日 田 日 井 日 菟 日 葉
倚 日 る 日 身 日 枝 日 持 日 守 日 夕 日 す 日 日 日 以 日 始
夏 日 陰 日 や 日 雪 日 く 日 脚 日 水 日 北 日 音 日 和 日 川

涼 ささくれく 霞子 心 花清
 白面や梅北むらゝ日傘 梅風
 扇を舞する日 塗るれ 蝶の 以冬
 卯北花や梅まゝの 朝露 序習
 望人北たれく 打水 鷗哉 可友
 夜初の花は照る 影い 相水
 篠切く 梅又 秋く 思有 採也
 西へあ 採させぬ家北 眉 玉く

挑燈又鬼灯さるや 舟ぬる 宜角
 涼風散るを 柳や 穉翁 泉次
 白面又そとく 採も あつて 相風
 竹北子の娘入たれ水や 花化粧 追友
 蓮北葉又 心を 梅さく 採ひ 茂林
 あちこちくも 採るれ 百合北 力哉 風野
 柳ま 風又ぬ 砂北 白サ 裁 己く
 花よりも 月北 梅の 採 さよ 通女

弦のよゝ柳風水とこあらん^{ツモ}千里
 吾新涼日ハ落るう草の^日多^日
 甲子も^日海濱にすこ^日哉^日 元女
 照ゆけくあゝ海濱し百舎の^日世^日 伴水
 晴く吹ねれ白く也青風^日 市私^日
 折ふは帯と^日みく^日思ふ^日 考二^日
 乃草の^日神に^日おこ^日く^日帯^日う^日 不知^日
 羽こそ^日此^日若^日葉^日や^日風^日に^日す^日る^日が^日 甚^日目^日寺^日 化^日際^日

灯は花あゝ舟に^{トシカ}あ^{トシカ}る^{トシカ}哉^{トシカ} 三^{トシカ}風^{トシカ}
 それ^{トシカ}く^{トシカ}く^{トシカ}郭^{トシカ}の^{トシカ}風^{トシカ}に^{トシカ}こ^{トシカ}さ^{トシカ}す^{トシカ} 七^{トシカ}人^{トシカ} 推^{トシカ}之^{トシカ}
 懐^{トシカ}此^{トシカ}身^{トシカ}を^{トシカ}穠^{トシカ}と^{トシカ}ま^{トシカ}く^{トシカ} 捨^{トシカ}う^{トシカ} 巴^{トシカ}静^{トシカ}
 若^{トシカ}左^{トシカ}知^{トシカ}く^{トシカ}物^{トシカ}を^{トシカ}可^{トシカ}物^{トシカ}に^{トシカ}此^{トシカ}一^{トシカ}手^{トシカ}に^{トシカ} 白^{トシカ}阿^{トシカ}
 眼^{トシカ}礼^{トシカ}を^{トシカ}舟^{トシカ}に^{トシカ}此^{トシカ}川^{トシカ}の^{トシカ}糸^{トシカ}に^{トシカ} 不^{トシカ}周^{トシカ}
 切^{トシカ}ま^{トシカ}な^{トシカ}れ^{トシカ}縁^{トシカ}も^{トシカ}や^{トシカ}波^{トシカ}に^{トシカ}引^{トシカ}こ^{トシカ}え^{トシカ} 九^{トシカ}流^{トシカ}
 灌^{トシカ}佛^{トシカ}や^{トシカ}ま^{トシカ}ど^{トシカ}大^{トシカ}は^{トシカ}弦^{トシカ}又^{トシカ}足^{トシカ}あ^{トシカ}る^{トシカ}す^{トシカ} 十^{トシカ}山^{トシカ}
 春^{トシカ}の^{トシカ}風^{トシカ}や^{トシカ}う^{トシカ}け^{トシカ}く^{トシカ} 園^{トシカ}茶^{トシカ} 春^{トシカ}の^{トシカ}卒^{トシカ}

六五

六五

草花葉子ぬすれいそよ紀り
 草風
 是部や人きふ水紀花はる色
 山朴
 牛花子の隣りも中や土花
 九杞
 新書越よこし初花散きく子
 馬六
 蝶く北追ゆる者戸北回植外
 芽巾
 照りく精の雨やせむ北花
 魚来
 本地川北雨きりも危るや本厨
 以之
 五月北花帯又標や水色は夕
 一胡

姫百合の葉陽もあま日照や
 露五
 清水北花葉玉又雪や杜中
 白碎
 高川ぬす先、ぬすのる電哉
 是浦
 山崖やあそと又熾りそと風
 峰岩
 隣り夕晴のす枝きり哉
 直架
 滋川や梢又碎くせきの花
 了菌
 元山よ雨花降りや杜能
 東家
 策北輪やまこ秋風の輪を尺寸
 南紅

六二

六二

白河の又晴すや方州北白月アツキ 三

笠茶ちりく奇嘉又座のあきしる 曾九

山此北路へくぢや爪ほほ子 巴持

志やくとゆる北吉起四月哉 和石

竹子や皮むくけ北表ぬる 里三

石井や垣根又歌くるの歌 以之

抱北石と帯れハ葎又けこ子 童平

誰呼るそ子燭又海。牡丹畑 里和

挑灯又燈上げ北流や駒道へ 許六

力ぬふくぬくけり日や望ふの秋 凉兔

柳を豊に川をてや銀北川ミナト山カサ 白粒

編素や娘のぬき人望む北上日 东羽

天人北居ふぬき月又く那日 六之

玉柳や陸仕北望ぬ北死けり 寺平

きりく次奇嘉又七等や七平外カサ七人 夕畑

丁瓜北母さくゆらゆらと
 種北者後種く麻北山久奴
 舟く高き頃城あり銀北川
 るやに衣通娘やら北月
 九月北衣後も葉北きより子
 西行北也海水を喰く
 起く北垣又北あり木槿ク
 西行北也海水を喰く
 午潮

涼ささ成た免くすれは
 三日月のひつこ成をす
 物北きのとれ初るや
 帷子北袖うら秋の半
 小男麻子吟星信ん
 粟北種やきさる上北
 一枝ぬり日や由又
 刈子寸草なる水以
 同重
 可敷
 乙子
 丸菊
 干巢
 瀬し
 海泉
 楓山

彌弓越もすしる芳我此栗山日借如水
 鐘れきたちるむもある松日眠石
 雄も五条あら此月秋くま己未久女
 夕暮れ山より月ありさう風いせおとす学探
 寐心たたる秋風雨とほり三州在芳内氏志計
 大なる此雪や落くまるとす日松花
 朝霧や今朝二輪自在端日葛葉
 川きりや一瀬日ぬくほ此月日青已

一々のや此花や雨此月中カイト花也
 伊れ山も懐くると露一糸今今隙尾
 朝霧は月より此霧吹く又日半葉
 名月よりまうとるや小石つき日松花
 月長く照るもあられや魂下す宿遊
 名月や表をさるる足拍子日立舟
 名月や柳や此若きか承ク其申
 水北面や人又溜りす秋此言中河川徳多

元山此奈情やうさるるは月井ノ夕才致
 拉大也咳多集子生姜志と一函日 其得
 隣々秋を子傳亦一系系裁日 浪若
 朝朝也日朝待宵のお借也 野水
 碧碧也夜撓々月夜也々心哉 州六
 秋立也夜存々操々ぬ々 琴流
 名月夜鼻子尺々々 梨九
 瓢瓢子所々々也也明也 志計

芝粟北帝白々々一不化仲尚東 东敬
 名の月とち々一引ん陸石の色アノ 林由
 川海也却尺々々々九月也日 溪笠
 名月也也と交々々々々年竹 瑠川
 吹々々々々々也清戸北立田川カサ 兔羽
 年幾帯又陸々々々 单系
 名月又密植北散の陸水々々 琴市
 砂々々々少々々々也明の也 日 呉雪

白粉をやらん流すや天北川
 案内いさし帷子よ菊の花
 其中又風をいりたる落哉
 相れ菊を散るく秋をを引
 名月北野やいさし月又雪
 深くあり一團の雪く相寄哉
 亦北碑堯寸望河北礎哉
 秋立や菊よ相寄る相寄る

梅笠
 棕月
 东野
 一歩
 任風
 佳木
 不遠
 竹松

窮乃を風北あさ北詠りな
 案一さの地よおるやそくを
 新秋北垣や白ひ北清水
 旋子案く礎をよま北り高か
 九月やいさし菊やも西本子菊
 新秋北垣夕顔北隣り糸
 本く一菊やも菊よ照るや九月
 案西本北芝又おるや九月

素塚
 可柳
 百箇
 菊身
 蘇ゆ
 百陀
 花杞
 春士

招咄此物未遠——昔ま夏の苑 素合
 湯あふやた吹れあふ 枯の音 如石
 名月や松糸又也寸海北中 以之
 名月や朝北朝の朝也 已静
 名月や五々空又 朽の影 其角
 色津美北朝皆梅。 月乃亦 蓮二亦

跋

此集の主人の意のまはるるを
 名はくし郎海也——向乃
 朝の志ははまもあしりた
 昔ら赤山あふ得まよとあふ
 るのち中なるははるる
 上らるる女な母も撰考乃

六十一

あまのめ鳥帽子をよきとす
もくぬき合ふものなり

三十三

京源下

巴野



京寺町二条橋屋治兵衛板行



六の七

本文二丁 美波 成俊紹を序 何人
三丁 六段

五丁 松田 五方
外

校井 (井と修し) 世有

ナハ丁 白全

廿九 抄中集のニアリ

廿九丁 白全

廿九 抄中集のニアリ

紙一丁 白全のセリ 抄中集のニアリ

抄中集のニアリ
抄中集のニアリ
抄中集のニアリ

十三丁 白全

抄中集のニアリ
抄中集のニアリ
抄中集のニアリ

抄中集のニアリ
抄中集のニアリ
抄中集のニアリ

十四丁 白全
抄中集のニアリ

十五丁 白全

抄中集のニアリ